

令和6年度
島根県学力調査
結果概要

令和7年2月17日（月）
島根県教育委員会

I 実施概要

1 目的

学習指導要領における各教科の目標や内容に照らした学習の状況及び学習や生活に関する意識や実態を客観的に把握し、児童生徒に必要な指導・支援を行うとともに、全国学力・学習状況調査等で明らかになった学習指導上の課題の改善状況を検証し、今後の学校における指導と教育施策の一層の改善・充実に資する。

2 実施日

令和6年12月3日（火）・4日（水）

3 実施校数

公立小学校（県立特別支援学校小学部を含む） 193校

公立中学校（県立特別支援学校中学部を含む） 94校

義務教育学校 2校

（国立義務教育学校及び私立中学校は不参加）

4 実施学年・教科・人数

			教科に関する調査			意識調査	県全体の 在籍者数 (R6.9.1時点)
			国語	算数 数学	英語		
小学校	第5学年	実施人数	5,254	5,256		5,253	
		割合(%)	94.8	94.8		94.8	
	第6学年	実施人数	5,300	5,299		5,302	
		割合(%)	94.4	94.4		94.5	
中学校	第1学年	実施人数	4,987	4,998	4,998	4,996	5,508
		割合(%)	90.5	90.7	90.7	90.7	
	第2学年	実施人数	4,859	4,868	4,867	4,873	5,499
		割合(%)	88.4	88.5	88.5	88.6	

5 県調査の考え方・特徴

(1) 全国学力・学習状況調査（以下「全国調査」という。）と島根県学力調査（以下「県調査」という）をつなげたPDCAサイクルの構築を推奨している。

- ①全国調査で明らかになった課題を改善するための指導の取組を、県調査で検証するPDCAサイクルを確立し、指導の改善を効果的に進める。
- ②当年度の指導の状況について客観的に評価し、個別指導を充実することにより、年度内に身に付けるべき力を着実に身に付けられるようにする。

(2) 教科に関する調査

フォローアップ機能の充実を図るため標準学力調査を活用する。

(3) 生活・学習に関する意識調査

標準学力調査の質問項目及び県独自に設定した質問項目について調査する。

(4) 課題をとらえやすい帳票と Web 評価支援システムの提供

各学校が自校の課題をとらえやすいよう帳票の各種データ表示を工夫するとともに、Web 上で結果データを分析することができる Web 評価支援システムを提供する。

(5) 子どもたちの事後学習を促すための個人帳票とフォローアップ教材の提供

結果を記載した個人帳票に加え、事後学習に活用できるフォローアップ教材を提供する。

6 用語

○平均正答率：設問の正答率の平均値

・島根県値：県内の受検者の正答率の平均値

・全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

7 公表する調査結果（教育指導課ホームページにも掲載）

令和6年度島根県学力調査 結果概要 *本資料

I 実施概要

II 教科に関する調査の結果

III 意識調査の結果概要

IV 今後の対応

II 教科に関する調査の結果

○教科平均正答率とは、教科における全設問の正答率の平均値を表している。

島根県値：県内の受検者の正答率の平均値

全国値：委託業者による標準学力調査の実施期間における、全国の受検者の正答率の暫定的な平均値

【小学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題） (%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		65.0	71.9	62.9	69.9
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	73.3	78.9	86.4	88.0
	書くこと	53.4	69.7	56.3	68.7
	読むこと	62.9	66.5	66.6	73.8
	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.2	74.2	59.4	65.4
	情報の扱い方に関する事項	56.1	62.6	57.5	62.5
	我が国の言語文化に関する事項	57.5	64.5	35.1	46.9

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】

A 目的や意図に応じて、集めた情報を分類したり、関係付けたりして、伝え合う内容を検討することに課題がみられる。

B 登場人物の相互関係や心情などについて、暗示的な描写を基に捉えることに課題がみられる。

【本調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
- ・領域別にみると、第5学年は全ての領域で全国値を下回った。第6学年は「話すこと・聞くこと」は全国値並みで、他の領域は全国値を下回った。第5学年、第6学年とも「書くこと」が全国値を大きく下回った。

① 第6学年では、「話すこと・聞くこと」において、話の内容を聞き取ることは概ねできている。

② 第5学年では、「読むこと」において、文章の内容を捉えることは概ねできている。

③ 既習漢字の読み書きは第5学年、第6学年ともに全国値との差が比較的小さい。

❶ 「書くこと」において、複数の情報から読み取った内容をもとに、指定された条件にしたがって自分の考えを書くことに課題があり、第5学年では作文問題の無解答率も高い。

❷ 第6学年では、「読むこと」において、描写をもとに登場人物の心情を捉えることに引き続き課題がみられる。…B

❸ 第5学年では、「読むこと」において、共有された意見や感想がどの表現に注目したものかを捉えることに課題がある。

2 比較的できている問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 2（1）①「言葉の特徴や使い方に関する事項」☞③

[島根県値 97.8%]

[全国値 96.7%]

〔問題内容〕

漢字を読む。

〔出題のねらい〕

第5学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 1（1）「話すこと・聞くこと」☞①

[島根県値 97.7%]

[全国値 97.6%]

〔問題内容〕

話し手が述べた理由の説明として最も適切なものを選ぶ。

〔出題のねらい〕

インタビューを聞き取り、話の内容を捉えているかをみる。

第5学年（2）

<p>〔問題番号〕 5（1）「読むこと」㊦② [島根県値 69.8%] [全国値 72.1%]</p> <p>〔問題内容〕 叙述から読み取れる内容として最も適切なものを選ぶ。</p> <p>〔出題のねらい〕 叙述をもとに文章の内容を捉えているかをみる。</p>
--

第6学年（2）

<p>〔問題番号〕 2（1）③「言葉の特徴や使い方に関する事項」㊦③ [島根県値 98.3%] [全国値 96.0%]</p> <p>〔問題内容〕 漢字を読む。</p> <p>〔出題のねらい〕 第6学年に配当されている漢字を正しく読むことができるかをみる。</p>
--

3 課題のある問題

第5学年（1）

<p>〔問題番号〕 4（3）「読むこと」㊦③ [島根県値 35.1%] [全国値 42.5%]</p> <p>〔問題内容〕 物語の内容に関する話し合いにおいて注目している表現を選ぶ。</p> <p>〔出題のねらい〕 共有された意見や感想がどの表現に注目したものかを捉えているかをみる。</p>
--

第6学年（1）

<p>〔問題番号〕 4（1）「読むこと」㊦② [島根県値 65.4%] [全国値 75.5%]</p> <p>〔問題内容〕 登場人物の心情として最も適切なものを選ぶ。</p> <p>〔出題のねらい〕 登場人物の心情について、描写を基に捉えることができるかをみる。</p>

第5学年（2）

<p>〔問題番号〕 7「書くこと」㊦① [島根県値 46.3%] [全国値 68.4%]</p> <p>〔問題内容〕 字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。</p> <p>〔出題のねらい〕 条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。</p>

第6学年（2）

<p>〔問題番号〕 6（2）「情報の扱いに関する事項」・「書くこと」㊦① [島根県値 47.5%] [全国値 52.8%]</p> <p>〔問題内容〕 複数の資料をもとに、図書だよりの下書きの空欄に当てはまる文章を書く。</p> <p>〔出題のねらい〕 情報と情報との関係について理解し、条件を踏まえながら、目的に応じた文章を書くことができるかをみる。</p>
--

4 今後の指導のポイント

- (1) 複数の情報から読み取った内容をもとに、指定された条件にしたがって自分の考えを書く学習を工夫・充実する。
- ・「情報の収集→整理・分析・考えの形成→文章を書いて表現」という一連の情報活用過程を含んだ言語活動を設定する。
 - ・文字数・段落構成・時間などを指定したり、資料を根拠に用いたり、考えの理由を述べたりなど様々な条件に応じて文章を書く場面、書いた文章が条件に即して分かりやすく伝わりやすいものになっているか互いの文章を読み合う場面を、繰り返し設定する。
 - ・言語活動を実践する際には、学校図書館やICT機器を有効に活用し、活動の充実を図る。
- (2) 文章の内容をよりの確に捉え、考えの広がりや深まりにつながるように、登場人物の心情や表現に注目する学習過程を工夫する。
- ・登場人物相互の関係にもとづいた行動や会話、情景などに注目することで、登場人物の心情を把握する場面を設定する。
 - ・心情や表現についての意見や感想を共有して共通点や相違点を明らかにしたり、互いの気づきを認め合ったりする中で、自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定する。

【小学校算数】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (%)

学 年		第5学年		第6学年	
		島根県値	全国値	島根県値	全国値
教科平均正答率		55.9	62.2	63.7	67.3
領域別 平均正答率	数と計算	56.5	61.7	66.9	72.2
	図形	65.2	74.2	63.9	67.0
	変化と関係	38.1	44.0	46.9	47.7
	データの活用	44.3	52.9	66.8	66.9

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】

- A 図形の特徴や構成要素を他の図形の計量に生かすことに課題がある。
 B 道のりと時間の2つの量の関係で表される速さなど、2つの量の割合として捉えられる数量について理解し、説明することに課題がある。

【本調査の状況】

- ・教科平均正答率の島根県値は、第5学年、第6学年ともに全国値を下回った。
 - ・領域別にみると、第6学年の「変化と関係」「データの活用」は全国値並みで、その他の領域はいずれも全国値を下回った。
- ① 基礎的な分数の計算については概ねできている。
 - ② 「図形」の領域において、平面図形の基礎的な内容については概ね理解できている。
- ❶ 「数と計算」「変化と関係」の領域において、正答率が全国値並みのものもあるが、数量の関係を読み解くことに課題がある。…B
- ❷ 「図形」の領域において、立体図形の問題の理解、構成要素の関係を捉えることに課題がある。…A

2 比較的できている問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 3（4） 「数と計算」 ①
〔島根県値〕 81.8%
〔全国値〕 89.6%
〔問題内容〕
分母の異なる分数の足し算の計算をする。
〔出題のねらい〕
真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算ができるかをみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 3（1） 「数と計算」 ①
〔島根県値〕 88.7%
〔全国値〕 92.7%
〔問題内容〕
真分数×真分数の計算をする。
〔出題のねらい〕
約分のない真分数×真分数=真分数となる計算ができるかをみる。

第5学年（2）

〔問題番号〕 12 「図形」 ②
〔島根県値〕 85.6%
〔全国値〕 85.6%
〔問題内容〕
合同な図形を作図する。
〔出題のねらい〕
3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができるかをみる。

第6学年（2）

〔問題番号〕 13（2） 「データの活用」
〔島根県値〕 88.2%
〔全国値〕 88.2%
〔問題内容〕
目的に応じて、データを整理する。
〔出題のねらい〕
度数分布表を完成させることができるかをみる。

3 課題のある問題

第5学年（1）

〔問題番号〕 8（1） 「図形」 ②
〔島根県値〕 52.9%
〔全国値〕 77.2%

〔問題内容〕

立方体の体積を求める。

〔出題のねらい〕

立方体の体積を求める式を理解できているかをみる。

第6学年（1）

〔問題番号〕 2 「数と計算」 ①
〔島根県値〕 55.3%
〔全国値〕 69.0%

〔問題内容〕

分数のかけ算の積の大きさを見積もる。

〔出題のねらい〕

分数の乗数の大きさから、積と被乗数の大小を判断することができるかをみる。

第5学年（2）

〔問題番号〕 15（3） 「数と計算」 ①
〔島根県値〕 8.1%
〔全国値〕 12.0%

〔問題内容〕

わり算を用いる場面で、あまりの処理の仕方を考える。

〔出題のねらい〕

厚さ 5.4 cm の辞書を、幅 90 cm の本棚に何冊ならべることができるかの説明ができるかをみる。

第6学年（2）

〔問題番号〕 14（1） 「変化と関係」 ①
〔島根県値〕 28.2%
〔全国値〕 27.5%

〔問題内容〕

比を用いた知りたい量の求め方を説明する。

〔出題のねらい〕

比を使って、一方の量から他方の量を求めることができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

（1）問題場面を図や数直線に表し、式と関連づけて考える経験を大切にする。

- 問題の文脈に沿って図をかく。問題文全体から数量の関係を表す言葉を見つけて図をかく。問題場面を数直線に表し、位置関係から数量の関係を読み取る。表した図や数直線から解の大きさの見当をつけたり、数量の関係を読み取って立式に生かしたりする。このような図や数直線と式を関連付けて考える経験を低学年の段階から積み重ねる。

（2）立体図形の内容や用語について実感を伴った理解となるよう、具体物を操作する活動を取り入れる。

- 箱やボールなど身の回りにある立体物を「持つ」「積む」「並べる」「転がす」など、実際に操作する活動を授業に取り入れる。具体物を操作する活動を通して、感じたこと、気付いたことなどを言語化し、図形の構成要素の特徴と関連付けながら算数の用語を理解する過程を大切にする。授業で学習した算数の用語等を学習や学校生活の中で意識的に用いる。

【中学校国語】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題）

(%)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	58.8	59.9	56.6	58.0	
領域別 平均正答率	話すこと・聞くこと	57.4	59.4	63.8	64.8
	書くこと	50.2	49.1	47.5	48.3
	読むこと	52.8	55.5	49.0	50.7
	言葉の特徴や使い方に関する事項	68.0	69.4	71.5	73.9
	情報の扱い方に関する事項	32.8	35.2	20.8	20.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.0	78.1	39.7	39.9

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】

A 資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。

B 表現の効果を踏まえた描写により自分の考えが効果的に伝わる文章になるよう工夫することに課題がある。

【本調査の状況】

・教科平均正答率の島根県値は、第1学年・第2学年とも全国値並みであった。

・領域別にみると、第1学年は「話すこと・聞くこと」「読むこと」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」で全国値を下回り、他の領域は全国値並み、第2学年は「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国値を下回り、他の領域は全国値並みであった。

- ① 「書くこと」については、記述式の問題の正答率が改善し、第1学年では条件作文の無解答率が減少した。
- ② 日常的に使用頻度の高い漢字の読み書きについては、概ねできている。
- ① 文章全体の構成や段落相互の役割、論理の展開の把握に課題がある。
- ② 第1学年では複数の資料の比較をもとに自分の考えを形成して文章を書くこと、第2学年では資料を用いて自分の考えを分かりやすく伝えることに課題がある。…A
- ③ 日常的に使用頻度の低い熟語の読み書きや同訓異字の使い分け、ことわざの理解に課題がある。

2 比較的できている問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 2（2）①「言葉の特徴や使い方に関する事項」②
 [島根県値 81.9%]
 [全国値 80.0%]

〔問題内容〕

かなを漢字に直して書く。

〔出題のねらい〕

小学校で学習した漢字を正しく書くことができるかをみる。

第2学年（1）

〔問題番号〕 1（3）「話すこと・聞くこと」
 [島根県値 44.0%]
 [全国値 38.8%]

〔問題内容〕

話の内容を聞き取り、当てはまる言葉を条件にしたがって書く。

〔出題のねらい〕

論理の展開に注意して、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめられるかをみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦①
 [島根県値 59.8%]
 [全国値 57.4%]

〔問題内容〕
 字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕
 条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 7 「書くこと」 ㊦①
 [島根県値 48.5%]
 [全国値 48.5%]

〔問題内容〕
 字数や記述すべき内容など、複数の条件を満たして作文する。

〔出題のねらい〕
 条件を踏まえながら、読み取った内容や自分の考えを明確にして文章を書くことができるかをみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

〔問題番号〕 4 (3) 「読むこと」 ㊦①
 [島根県値 63.0%]
 [全国値 66.7%]

〔問題内容〕
 文章の構成についての説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕
 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかをみる。

第2学年(1)

〔問題番号〕 1 (2) 「話すこと・聞くこと」 ㊦②
 [島根県値 71.5%]
 [全国値 77.7%]

〔問題内容〕
 話し方の共通点の説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕
 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫できるかをみる。

第1学年(2)

〔問題番号〕 6 (3) 「情報の扱い方に関する事項」・「書くこと」 ㊦②
 [島根県値 30.2%]
 [全国値 32.4%]

〔問題内容〕
 資料をもとに、レポートの空欄に当てはまる文章を書く。

〔出題のねらい〕
 情報と情報との関係について理解し、考えが伝わる文章になるように工夫できるかをみる。

第2学年(2)

〔問題番号〕 4 (2) 「読むこと」 ㊦①
 [島根県値 67.6%]
 [全国値 71.6%]

〔問題内容〕
 段落の役割についての説明として正しいものを選ぶ。

〔出題のねらい〕
 文章の構成や論理の展開について考えることができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

- (1) 文章全体の構成や段落相互の役割、論理の展開の把握につながる学習過程を工夫する。
 - ・文章の内容理解にとどまらず、文章全体の構成や段落相互の役割について考える学習活動や、学んだことを活用して自分の考えを筋道立てて表現する言語活動を設定する。
- (2) 資料の比較をもとに自分の考えを工夫して伝える学習過程を工夫する。
 - ・資料の内容や数値を読み取るだけでなく、資料の役割や効果について考える学習活動を設定する。
 - ・「資料の収集→整理・分析・(資料を根拠にした) 考えの形成→効果的に相手に伝える」という一連の情報活用過程を含んだ言語活動を設定し、学校図書館や ICT 機器を活用しながら学習を進める。
- (3) 日常的に使用頻度の低い熟語の読み書きや同訓異字の使い分け、ことわざの理解について、語彙の獲得や活用につながる学習過程を工夫する。
 - ・語彙の獲得につながる読書指導や、調べ学習を伴う言語活動の充実を図る。
 - ・他教科や総合的な学習の時間等の学習、家庭学習、日常生活なども含め、既習事項を活用する場を繰り返し設定する。

【中学校数学】

1 全体的な結果の概要（○成果 ●課題）

(%)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	52.1	56.2	48.7	49.6	
領域別 平均正答率	数と式	55.2	59.7	45.3	44.6
	図形	66.5	72.6	62.2	59.8
	関数	42.9	44.7	46.6	50.0
	データの活用	-	-	-	-

【令和6年度全国調査（4月実施）の課題】

- A 「数と式」の文字式を用いた説明に課題がみられた。
 B 「図形」の筋道を立てて考え、証明することに課題がみられた。

【本調査の状況】

- ・ 教科平均正答率の島根県値は、第2学年は全国値並み、第1学年は全国値を下回った。
 - ・ 領域別にみると、第2学年の「図形」で全国値を上回り、第1学年の「関数」と第2学年の「数と式」が全国値並み、第1学年の「数と式」、「図形」と、第2学年の「関数」で全国値を下回った。
- ① 一次方程式の比例式、基本的な文字式、連立方程式を解くことは概ねできている。
 ② 図形の性質を理解し、そのことを利用して角の大きさを求めたり証明したりすることに改善がみられる。…B
- ① 数や式の意味についての理解が十分でなく、「数と式」「関数」の領域に課題がある。…A
 ② 式・表・グラフを関連付けて考えることに課題がある。

2 比較的できている問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 8 「数と式」 ①	
	[島根県値 65.6%] [全国値 65.4%]
〔問題内容〕	比例式を解く。
〔出題のねらい〕	比例式を比の性質を利用して一次方程式に変形し、解を求めることができるかをみる。

第2学年（1）

〔問題番号〕 2 (2) 「数と式」 ①	
	[島根県値 58.1%] [全国値 54.5%]
〔問題内容〕	単項式の乗法と除法の混じった式を計算する。
〔出題のねらい〕	単項式の乗法と除法の混じった式を計算のきまりにしたがって正しく計算することができるかをみる。

第1学年（2）

〔問題番号〕 11 (4) 「関数」	
	[島根県値 52.6%] [全国値 49.6%]
〔問題内容〕	反比例のグラフをかく。
〔出題のねらい〕	反比例の式から、そのグラフをかくことができるかをみる。

第2学年（2）

〔問題番号〕 13 (1) 「図形」 ②	
	[島根県値 66.7%] [全国値 61.0%]
〔問題内容〕	平行線の性質を利用して角の大きさを求める。
〔出題のねらい〕	補助線を引いて、平行線の錯角の関係をを利用して角の大きさを求めることができるかをみる。

3 課題のある問題

第1学年（1）

〔問題番号〕 4（4）「数と式」 ㊦①
〔島根県値〕 28.8%]
〔全国値〕 28.3%]
〔問題内容〕
一次式の減法を計算する。
〔出題のねらい〕
一次式の減法において、計算の順序やきまりにしたがって正しく計算をすることができるかをみる。

第2学年（1）

〔問題番号〕 7（1）「関数」 ㊦②
〔島根県値〕 55.6%]
〔全国値〕 64.4%]
〔問題内容〕
一次関数の表から正しいグラフを選ぶ。
〔出題のねらい〕
一次関数の関係を表す表から、傾きや切片の値を判断し、正しいグラフを選ぶことができるかをみる。

第1学年（2）

〔問題番号〕 11（3）「関数」 ㊦②
〔島根県値〕 41.7%]
〔全国値〕 47.2%]
〔問題内容〕
比例の式から、そのグラフ上にある点を選ぶ。
〔出題のねらい〕
比例の式に与えられた値を代入するなどして、そのグラフの上にある点を選ぶことができるかをみる。

第2学年（2）

〔問題番号〕 7（2）「関数」 ㊦②
〔島根県値〕 69.7%]
〔全国値〕 80.9%]
〔問題内容〕
一次関数のグラフをかく。
〔出題のねらい〕
一次関数の式からグラフをかくことができるかをみる。

4 今後の指導のポイント

（1）日常生活や他教科との関連を意識して学習できるようにする。

- ・日常生活と数学を関連づけた学習を設定したり、数学で学んだことを他教科で活用する教科横断的な学習を設定したりし、学習内容の理解がさらに深まるようにする。また、問題の解決につながる解き方の手順等についても、その意味を正しく理解して活用できるよう数の概念や式の働きについて具体的な場面と関連付けて学習できるよう工夫する。

（2）一人ひとりが自分で選択して学習できるようにする。

- ・数や文字、表やグラフなど一人ひとりが考えやすい、表現しやすい方法を自ら選択しながら問題解決に取り組むことができるようにする。自分で問題の条件を変えて考える、他者の考えを参照して自分の考えを形成するなど、生徒が自分の考えをもつことができるようにし、多様な考えや表現を関連付けながら学ぶことができるようにする。その際、ICT機器を効果的に活用する。

【中学校英語】

1 全体的な結果の概要 (○成果 ●課題) (％)

学 年	第 1 学年		第 2 学年		
	島根県値	全国値	島根県値	全国値	
教科平均正答率	48.6	56.8	44.1	52.1	
領域別 平均正答率	聞くこと	57.7	64.3	47.7	54.5
	話すこと	—	—	—	—
	読むこと	48.7	59.8	47.8	57.0
	書くこと	40.3	45.5	34.8	42.1

【令和 5 年度県調査の課題】

A 対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答することに課題がみられる。

B 与えられたテーマについて、具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題がみられ、無解答率が高い。

【本調査の状況】

・県平均正答率の島根県値は、第 1 学年、第 2 学年とも全国値を下回った。

・領域別にみると、第 1 学年、第 2 学年とも全ての領域で全国値を下回り、特に「読むこと」が全国値を大きく下回った。

- ① 第 1 学年は、「聞くこと」において、短い対話の概要を捉えて適切に応答する力は概ね定着している。…A
- ② 第 1 学年は、「書くこと」において、疑問詞を用いて正しい語順で書く問題で全国値を 9.5 ポイント上回った。
- ③ 第 2 学年は、対話に合う適切な語(句)(不定詞の形容詞的用法)を用いる問題や適切な語順(that 節)に並べ替えて文を構成する問題について、全国値並みであった。
- ❶ 日常的な話題について、簡単な語(句)や文で書かれたものや図表を参考にして必要なことを読み取る力に課題がみられる。
- ❷ 文構造や文法事項、言語の働きなどの知識を活用し、正しい語順で文を構成することや、伝えたいことについての情報を正確に書くことに課題がある。
- ❸ 与えられたテーマについて、具体的な理由や説明をつけ加えて英文を書く力に引き続き課題がみられ、無解答率が高い。…B

2 比較的できている問題

第 1 学年 (1)

<p>[問題番号] 2 (1) 「聞くこと」 ⇨①</p> <p style="text-align: right;">[島根県 61.6%] [全国値 57.5%]</p> <p>[問題内容] 短い対話を聞いて、対話の最後に入る適切な文を選ぶ。</p> <p>[出題のねらい] 対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答する力をみる。</p>
--

第 2 学年 (1)

<p>[問題番号] 6 (1) ② 「読むこと」 ⇨③</p> <p style="text-align: right;">[島根県値 72.8%] [全国値 73.8%]</p> <p>[問題内容] 対話文が意味の通る文になるように、適切な語(句)を選び、文を完成する。</p> <p>[出題のねらい] 不定詞の形容詞的用法を含む対話文の内容を正しく理解する力をみる。</p>

第1学年(2)

[問題番号] 8 (2) 「書くこと」 ②

[島根県値] 55.0%

[全国値] 45.5%

[問題内容]

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて書く。

[出題のねらい]

Whose を含む疑問文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

第2学年(2)

[問題番号] 9 (1) 「書くこと」 ③

[島根県値] 66.2%

[全国値] 67.9%

[問題内容]

対話文が意味の通る文になるように、単語を並べ替えて書く。

[出題のねらい]

that 節を含む文の語順を理解し、正確に書く力をみる。

3 課題のある問題

第1学年(1)

[問題番号] 5 (1) ② 「読むこと」 ②

[島根県値] 17.3%

[全国値] 50.2%

[問題内容]

対話文が意味の通る文になるように、適語を選び、文を完成する。

[出題のねらい]

主語が複数の場合の一般動詞の疑問文を含む対話文の内容を正しく理解する力をみる。

第2学年(1)

[問題番号] 7 (3) ① 「読むこと」 ①

[島根県値] 20.7%

[全国値] 38.2%

[問題内容]

チラシに関する対話文を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を選ぶ。

[出題のねらい]

日常的な話題について、簡単な語(句)や文で書かれたものを読み取る力をみる。

第1学年(2)

[問題番号] 6 (2) 「読むこと」 ①

[島根県値] 43.2%

[全国値] 55.0%

[問題内容]

メールでの質問に対して、回答として最も適切な文を選ぶ。

[出題のねらい]

メールの要点を理解し、相手の意向に適切に応じる力をみる。

第2学年(2)

[問題番号] 11 「書くこと」 ③

[島根県値] 21.8%

[全国値] 32.1%

[問題内容]

メッセージでの質問に対して、具体的な理由や説明を加えて、3文以上の英文を書く。

[出題のねらい]

おすすめの場所について、まとまった内容で紹介する英文を書く力をみる。

4 今後の指導のポイント

(1) 英文の読み取りにおいては、目的をもって読む活動に取り組む。

- ・比較的まとまった量の英文の読み取りは、発問の意図を明確にするために、本文中の it や that の内容を考えさせるなど、英文を正確に読み取ることを促したり、筆者が最も伝えたい内容等について考えながら読むことができるようにしたりすることが重要である。
- ・書かれている内容に対して自分の考えを述べる活動や賛否を問う活動と関連づけることで、書き手の意図や要点、細部に注意を向けながら意図的・意欲的に読むことができるよう工夫する。
- ・指導にあたっては、分からない表現を調べる、自己表現で使いたい事柄や語(句)などを書き出す、タブレット端末を活用して音読練習を行うなど、生徒自身が学習方法を選択し、積極的に学べるような環境を整える。

(2) テーマについて事実や考えを整理し、基本的な構成に沿ってアイデアを広げながら、文のつながりを意識して書くことができるようにする。書くことへの抵抗を減らし、日常的に書く習慣を身につける。

- ・生徒にとって身近で興味のあるテーマを扱うことで、書くことへの関心を高める。
- ・書くことへの抵抗を減らすために、短い文から書くようにしたり、定型表現 (I think ~ because …) を活用して書き出しの負担を軽減したりする。また、「書けた」という成功体験を積み重ねられるよう工夫する。
- ・事実や考えを整理する際には、ペアでの対話やマインドマップを活用してアイデアを可視化するほか、ICT 機器などを活用して他者の意見を参考にすることも有効である。
- ・構成を意識した文章を書くために、事実・意見・理由・具体例などの要素を明確にさせるとともに、接続詞を適切に使用し、文のつながりを意識させる。

Ⅲ. 意識調査の結果概要

1 しまねの学力育成推進プランの達成状況を把握する質問項目

(1) 授業の質の充実

- ① 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う。
- ② 今年度の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる」とについては、小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、全国並みである。「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」とについては小中学校ともに肯定的な回答が8割を越え、小学校では昨年度に比べ大幅に上がっている。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保するとともに、個別最適な学びの充実を図る必要がある。
- 「授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週3回以上使用した」と回答した児童生徒の割合は、小中学校ともに過去の調査と比べ増加しているが、全国を大きく下回っている。「児童生徒同士がやり取りする場面」や「自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「デジタル教科書の活用」等、端末の効果的な活用を市町村教育委員会と共に進める必要がある。

(2) 家庭学習の充実

- ③ 学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強をしますか。
- ④ 授業で興味関心を持った内容について、自主的に調べ学習（家庭学習）を行っている。
- ⑤ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。
- ⑥ 先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしたりしてくれる。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する」児童生徒の割合は全国的に減少傾向にある。全国と同様に島根県も減少しており、家庭学習時間の差は縮まっていない。「家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例をあげながら教えた」と回答している学校は9割を越えており、学校は家庭学習の充実に向けて取り組んでいるが、児童生徒の学習時間の増加にはつながっていない。家庭学習の充実に向けた取組の好事例を各学校に広げ、家庭学習と授業との有機的な結び付きを図るとともに、一人一台端末の家庭への持ち帰りによる活用など、児童生徒が自分にあった学習方法を見出せるよう支援する必要がある。

(3) 地域に関わる学習の充実

- ⑦ 地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいる。
- ⑧ 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。
- ⑨ 地域の行事に参加している。
- ⑩ 「総合的な学習の時間」では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」児童生徒は、昨年と比べ大幅に増えた。中学校では、全国を上回り、小学校でも全国並みであった。「教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている」と回答した学校が小中ともに9割を越え、全国を上回っていることから、各校での地域と連携した学習の成果であると考えられる。
- 「『総合的な学習の時間』では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」とについて、小学校は全国並み、中学校は全国を上回った。肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに8割を越え、昨年度に比べ増加している。また、9割程度の学校が「調査対象学年の児童〔生徒〕に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしている」と回答しており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程をふまえた学びにつながっていると考えられる。

(4) その他

- ⑪ 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画資料などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）。

【令和6年度全国調査（4月実施）の本県の課題】

- 「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯型のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」と「普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）」について、それぞれ3時間以上と回答した児童生徒の割合は、全国と比べ少ないが、島根県においても一定数存在している。長時間のメディア接触が学力に及ぼす影響について危惧されていることや、心と体の健康を図るために、メディアとの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。
- 「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」について、肯定的な回答をした児童生徒は、小中学校ともに昨年度同様8割を越えている。今後も、児童生徒一人ひとりの課題等に対応したきめ細かな指導の継続が求められる。

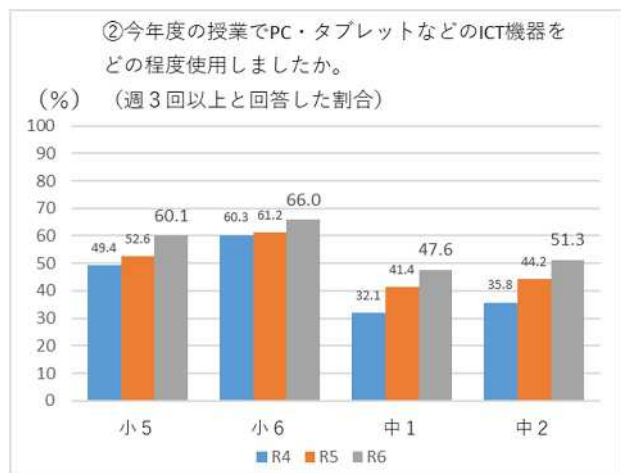
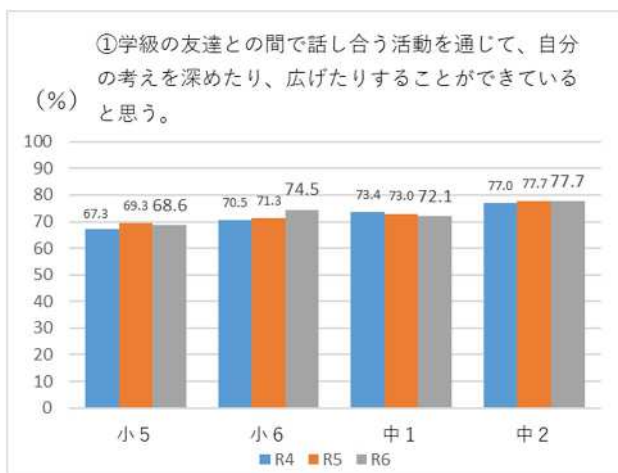
2 課題の改善状況

※数値は質問紙において「とてもあてはまる」「まああてはまる」と肯定的な回答をした割合。

※グラフの◆は、全国値を示している。◆のないグラフは県独自の設問。

(1) 授業の質の充実

- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う。」について肯定的な回答をしている児童生徒は、昨年度同様7割程度であるが、同一集団を比較すると年々数値が高くなってきていることから、授業改善が着実に図られていることがわかる。引き続き、自分の考えを発表したり、友達の発表を聞いたりするなどの協働的な学びの場を確保する必要がある。
- 「今年度の授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度利用しましたか。」について週3回以上と回答した児童生徒の割合は、過去の調査と比べ増加しており、一人一台端末の授業での活用が進んできている。今後端末の効果的な活用を進め、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」といった個別最適な学び、協働的な学びを推進していく必要がある。



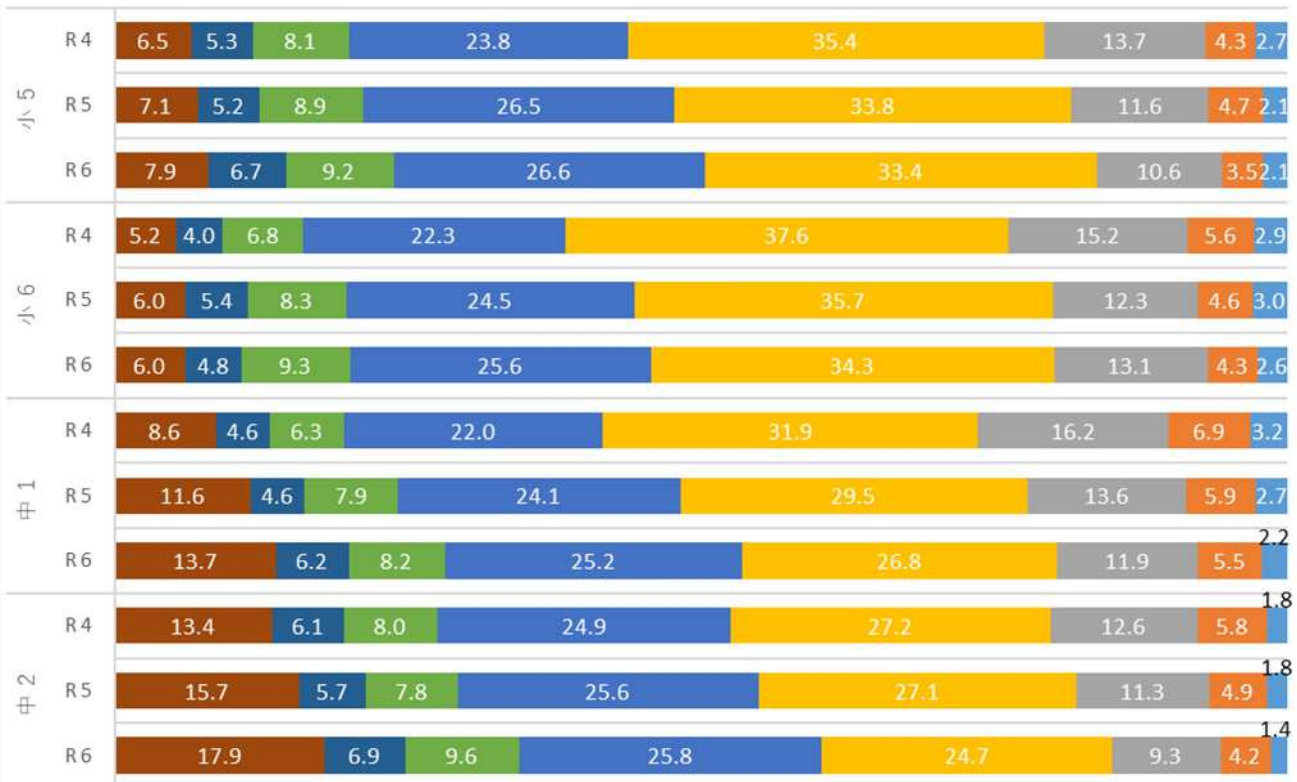
(2) 家庭学習の充実

○「学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日どのくらい勉強をしますか。」については、1日当たり1時間以上勉強する児童生徒の割合は昨年度より減少している。また、「授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習（家庭学習）を行っている。」については、小中学校ともに5割を下回っている。今後、授業で学んだことを生かしながら、児童生徒自らが興味・関心をもって探究していく学習が求められる。

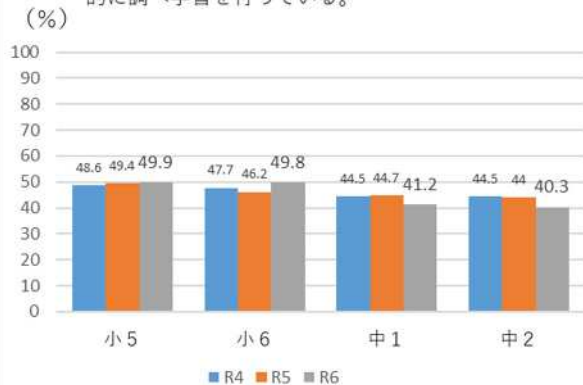
○「自分で勉強の計画を立てて、勉強している。」については、R5 県調査と同様、全国並みである。「先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしたりしてくれる。」については、小学校では、肯定的な回答が7割を越えている。引き続き家庭学習について教職員同士が共通理解を図り、家庭での学習方法について具体例を挙げながら指導する必要がある。

③ 学校に行く日は、学校の授業時間以外に、1日にどのくらい勉強をしますか。

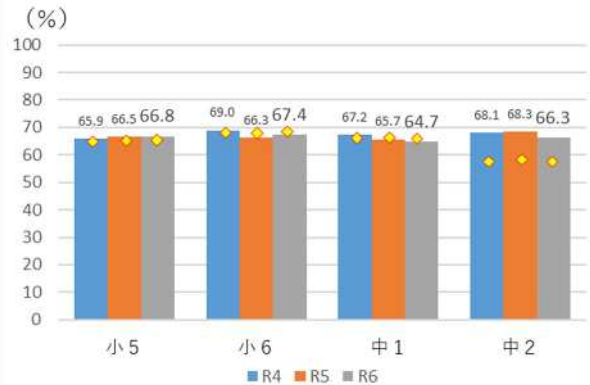
■ ほとんどしない ■ 10分くらい ■ 20分くらい ■ 30分くらい
 ■ 1時間くらい ■ 1時間30分くらい ■ 2時間くらい ■ 2時間より長い

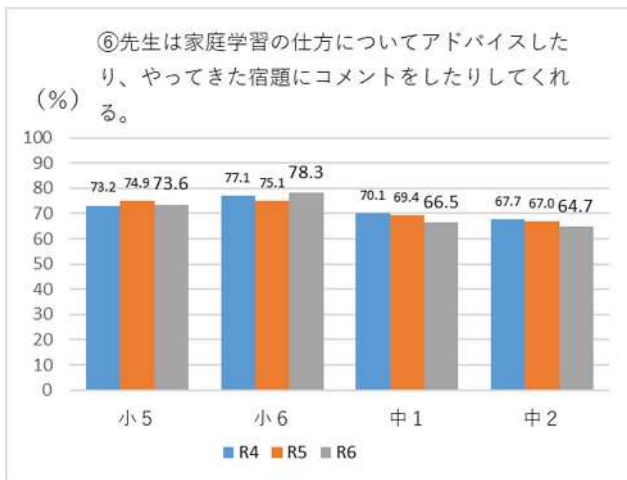


④ 授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ学習を行っている。



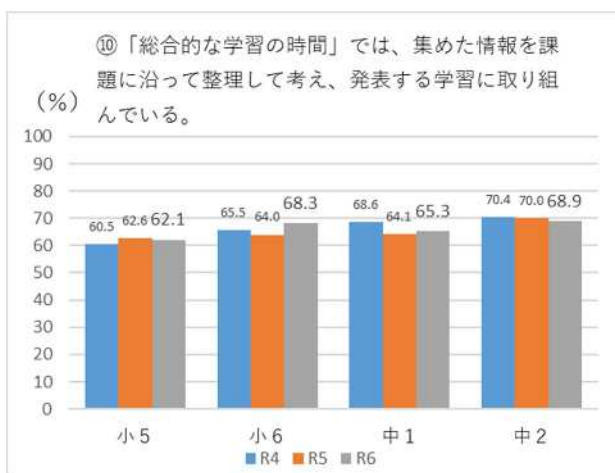
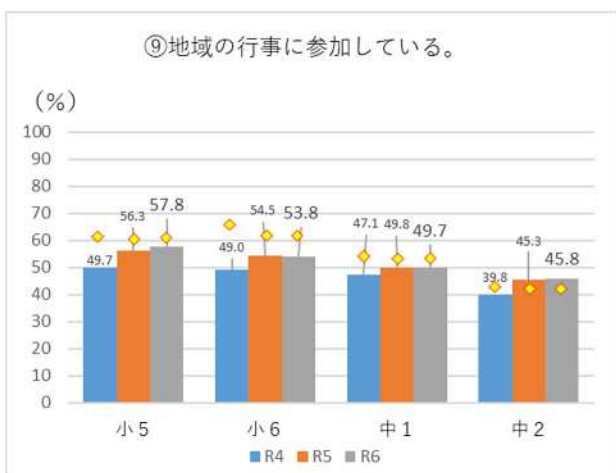
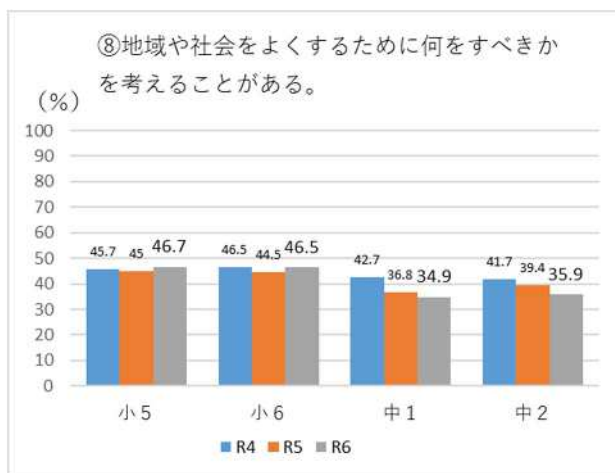
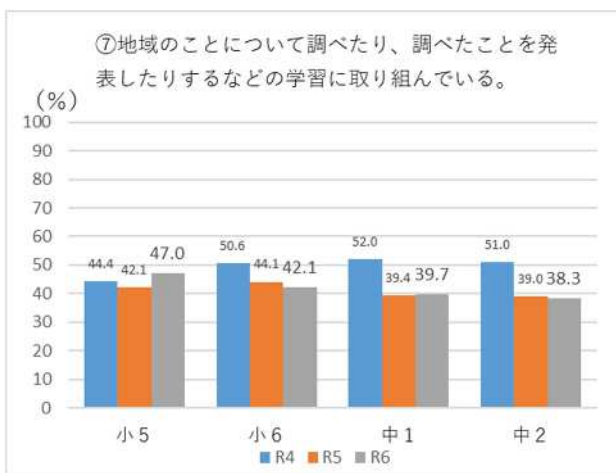
⑤ 自分で勉強の計画を立てて、勉強している。





(3) 地域に関わる学習の充実

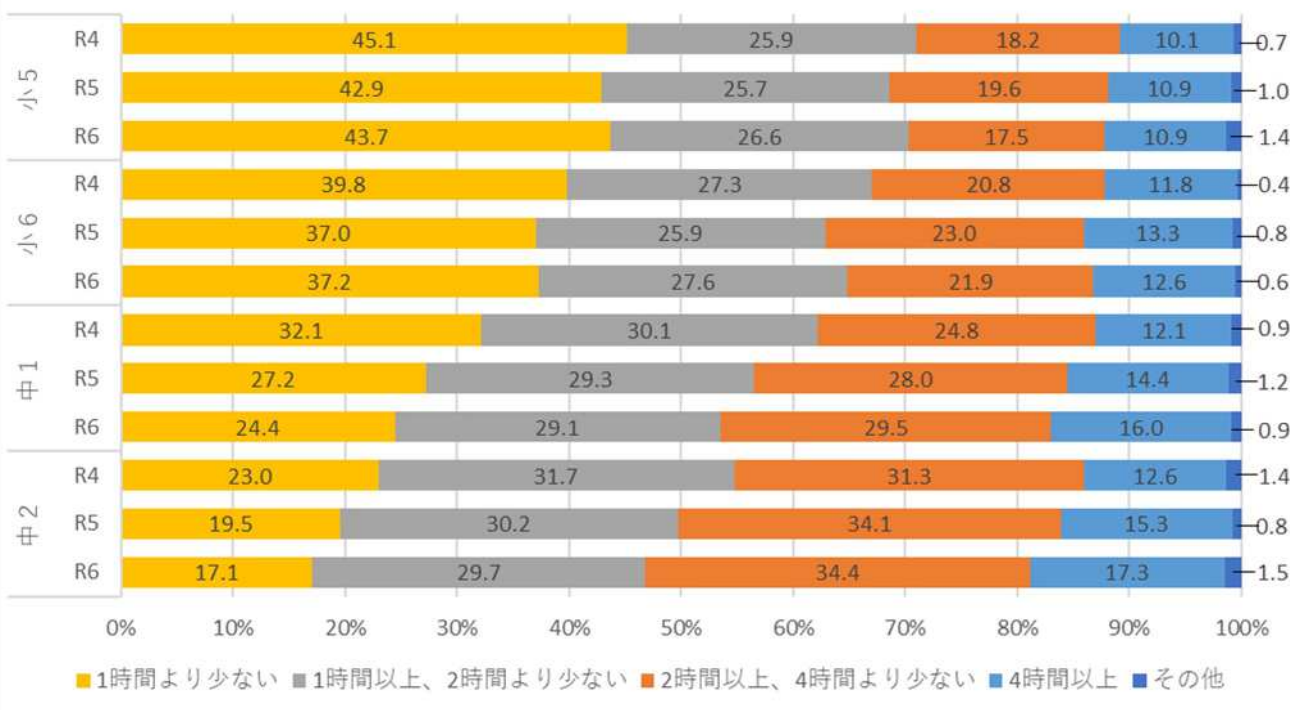
- 「地域のことについて調べたり、調べたことを発表したりするなどの学習に取り組んでいる。」については、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。」「地域の行事に参加している。」も合わせ、数値が低い。ふるさと教育を通じた地域のひと・もの・ことを活用した学習、主権者教育の視点から地域に対する関わり方を考える学習を進めていく必要がある。
- 「『総合的な学習の時間』では、集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する学習に取り組んでいる」について肯定的な回答をした児童生徒の割合は、6割を越えている。同一集団を経年で比較すると、肯定的な回答の割合は上がっており、各校での授業改善が、児童生徒の探究の過程を踏まえた学びにつながっていると考えられる。



(4) その他

○「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームする時間は除く）」については、学年が進むにつれて使用時間が増加している。特に長時間使用する生徒の割合が増えており、学力に及ぼす影響や心身の健康に対する影響について危惧される。メディアの適切な接し方について、保護者と連携して対応していくことが必要である。

⑪普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか。（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除きます。）



IV 今後の取組

- 1 県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協力し、全国学力・学習状況調査及び県学力調査結果分析に基づいた指導の改善を推進する。

○授業の質の充実

全国学力・学習状況調査等の各種調査の分析を参考にし、各教科等の連携を図りながら組織的かつ計画的に授業の質を充実させる。

- ・全教員が課題のあった問題を解き、ポイントや求められる力を確認後、自校の調査結果の解答類型から児童生徒のつまずきの要因を把握し、授業改善策と評価方法を協議する。これらを踏まえて改善に向けた授業を実施し、具体的な評価問題等で改善状況を検証する。
- ・自分の考えを語尾までしっかりと話すこと（説明すること）、書くことを繰り返し指導する。
- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けて、「考えを共有したり比べたりする」「考えをまとめ、発表・表現する」「学習記録を活用しながら、自分のペースや学び方に合わせて学習を進める」などで一人一台端末の日常かつ効果的な活用を一層進める。
- ・学習指導要領の趣旨や小・中・高等学校の連続性と系統性を踏まえ、児童生徒が身に付ける資質・能力を明確にした授業を行う。

○家庭学習の充実

家庭学習と授業の学びをつなぐ工夫をし、児童生徒が自分に合った学習方法を見いだせるよう、教員の指導改善や児童生徒の学習改善を行う。

- ・授業を家庭学習につなぐ具体的な指導について教員が共通理解を深める。
- ・学習内容の定着を図る宿題に取り組むだけでなく、学習計画を立て、計画に基づいて学習を実行する力を育成する。
- ・一人一台端末を活用し、AIドリルなどの個々のニーズに応じた家庭学習を充実させる。

○地域に関わる学習の充実

児童生徒一人ひとりが自ら課題を見つけ、解決への道筋を見通しながら様々な解決方法を考える力を育成するとともに、主権者教育の視点から、地域や社会に主体的に関わる実行力を養う。

- ・「総合的な学習の時間ガイドブック」を活用し、「児童生徒の思考の流れに沿った探究活動が行われるような授業」を行う。
- ・地域素材の効果的な活用と、各教科等で身に付けた知識や技能を地域や社会での生活に生かそうとする意欲の醸成を行う。

2 県教育委員会の取組

- ・学力育成会議等で市町村と学力育成の取組について協議するとともに、各市町村の取組や成果を各市町村・学校と共有する。
- ・「全国学力・学習状況調査」「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」「英語教育実施状況調査」等で学力育成に係る市町村の状況を把握し、支援を行う。
- ・学校全体で組織的な授業改善が進められるよう、調査結果の分析の仕方や今後の取組の設定等について、学校訪問により支援を行う。また、全国学力・学習状況調査の課題を分析し、授業や家庭学習で活用できる評価問題や授業プランを提供する。
- ・小学校低学年段階からの学習のつまずきを把握し、授業改善や学習支援に生かすための調査を実施する。
- ・課題に基づく今後の授業づくりのポイントについて、説明動画、各教科等の指導の重点及び授業チェックリストを作成し、各学校に配信・配付するとともにそれらの活用を促進し、活用状況を確認する。